

三千人近くの命が失われた一九四五年八月
二日未明の富山大空襲から七十年。私の祖母
が幼い頃に起きた空襲です。
富山大空襲では、東京大空襲の時とほぼ同
じ量の焼夷弾が投下され、市街地のほとんど
が炎に包まれました。建物は焼失し、人々は
黒焦げになり、川原にたくさん並べられていた
そうです。
私が新聞の記事を読んでみると、祖母がそ
の時の話を聞かせてくれました。数えきれな
いほどのアメリカ軍の爆撃機が富山上空を飛
んていたそうです。富山市の方が炎で真赤
になりました。空襲後の富山は、たくさんの遺体が並
べられ、建物が焼失し、変わり果てた状態に
なっていました。
この記事を読んだら、話を聞いたりして、
戦争は本当に恐ろしいと思いました。戦争をし
た後に残っているのは、大切な人を失った悲
しみ、残酷さ、憎しみ、嫌なことしか残りま



せん。また、その気持ちは一生消えること
ありません。
なぜ、戦争が起きてしまうのでしょうか。
文化や宗教の違い、さまざまな原因やきっかけ
があります。しかし、それが原因で、た
くさんの人が犠牲になります。誰もか平和な暮
らしを願って、いるはずで、す。
戦争の苦しみを体験した方にとっ、ては、今
はとも平和だと思えます。戦争について全
然分らない私たちは、もっと勉強したり、
祖父や祖母に話を聞いたりするべきだと思
います。そして未来の子どもに伝えてい
かなければいけないと思います。自分の国の歴史を
学び、深く知っていきたくです。また、小
さな平和を大きな平和に変えたいです。例
えば、お互いが協力し合い、助け合うこと
や、信頼関係を持つことが、大きな平和
につながるか、てい、くと思、います。自分
から身近な人へ、日本人へ、世界の中
の人へ、平和のバトンを渡し続けられ
る人になりたくです。



今回、富山大空襲について考えてみて、改めてたくさん知ることができました。普段は戦争や平和についてあまり考えませんでした。ただ、多くの人が考えていけないことだと思います。二度と戦争が起きないためには、私たち若い世代が過去を知り、今を学び、未来を見る力をつけていくことが大切です。

毎年八月二日を迎えて、一年に一度は、こうして考え直すことこそが必要だと思います。

戦争のことを真剣に考えることが平和への道へつながっていくと思います。

平和は、戦争がない暮らしだけではないと思います。私が思う平和は、みんなが笑い合っているから安心して暮らすことだと思います。私たちが一人きりじゃありません。誰かに支えられてもいい助けられています。誰かいます。日本だけではなく、他の国の人たちも、平和で幸せに暮らせることを願っています。そして、自分の命を大切にしていきたいです。



れか、平和への道へつながっていくことを信じています。

